活動ノート

1月14日（土）
アカマツ林整備
13：00～14：30

◆参加者：榊、静間、山川、岩尾、迫（一）、鎌田、川内、川上、阪下、柴戸、冨永、本村、松井（体験）、河原（センター）　計14名

◆内容：アカマツ林のC地区を主な対象地として、残す木を確認しながら、低木の除伐と萌芽枝除去、枯れ枝などの片付けを行いました。まず、参加者で伐木する木や萌芽枝の選定を確認し、目標の作業時間を1時間30分と設定して作業を行いました。

皆さん久しぶりの作業なので気合が入っていて、目標が定まったら、ノコギリ作業でお互いの間隔を確認するのを忘れて、切り始めたので、途中で順番を調整してそれぞれの作業を行いました。伐木の方法も、初心を忘れずに基本を踏まえて作業することが大切だということを再確認しました。

冬で林内の見通しが良かったこともあり、幼木の生長を改めて認識することも出来ました。木を切るのが久しぶりの人も、楽しく作業が出来たようです。一部にはアカマツ林の作業範囲をもう少し広げて欲しいとの声も聞かれました。しかし、まだまだA地区

の堆肥ヤード下の谷沿いも作業したい場所としては残っています。短い時間でしたが、調査幼木周辺・遊歩道などがきれいにさっぱりして気持ちよい風景になりました。

【ふりかえりより】

・冬はスッキリしているけど春になったらまた大変かな？（静間）

・初めが大事、事始はやはりチョキチョキからですね今年も宜しくお願いします（本村）

1月28日（土）
木工教室、クヌギの生長調査、樹名板設置
10：00～15：45

◆参加者：：鎌田（隆）（麗）、篠原、阪下（午後のみ）、田口、安部、榊、林、羽迫、本村、河原（センター）、山下（体験）、吉田（体験）　計13名

◆内容：午前中は室内で木工教室を、午後はカブトムシの森に移動して、クヌギ生長調査と樹名板設置を行いました。

午前の木工教室は、バードコール（大・小）と竹笛を製作しました。レクチャールームにブルーシートを敷き、材料・道具を揃え、作り方、注意事項、使い方の説明を行い2班に分かれて作業始め

ました。

<バードコールの作り方>

材料は、直径2cm程度の枝や幹とネジ

①電気ドリルでネジを通す穴と紐で提げる穴を空ける。②摘む部分と本体を竹切りノコで切り離す。③摘み部分の枝にペンチとドライバーを使ってネジをねじ込む。④ネジを通した摘み部分を本体にねじ込む。⑤紐をつける。

<竹笛の作り方>

材料は、直径3cm程度の材

①吹き口側を垂直に切る。（少し斜めに切る）②吹き口を切る。③吹き口と顎に当たる部分の角をヤスリで整える。

バードコールも竹笛も作り方は簡単なので作業を始めてまもなく「試運転」が始まりました。バードコールは少し動かし、ネジと枝の本体が馴染まないといい音はなりません。竹笛も吹く強さ、吹く場所、口の形などなかなか難しいので「フー、フー」ばかり。しばらくして、「キュルー、ルー、キュル、ルー」とバードコールの鳴き声が聞こえ、次いで修行中の虚無僧の尺八の音も聞こえてきました。

竹笛は本物の尺八のような長いもの、こぶしに収まるような短

いもの、指の穴をあけたものや、左右を紙でふさいで穴を空けたものなど、いろんな竹笛ができました。

午後からの樹名板の設置は、３１枚用意した樹名板を沿道の樹木に取り付けました。しかし、樹木の調査を行ったのが、徐伐が進む前であったことや、落葉期で葉がついていなかったことで樹名がはっきりしなかったので、用意した板の一部は次回に持ち越しとなりました。

また、生長調査は、毎年調査しているＡ地区で今年も幹周りと樹冠幅の計測を行いました。 樹幹幅を計測する時は、上を向いて計測するため、斜面に気づきにくいので、計測している人以外が声をかけて、注意して行いました。間伐なども進み、以前よりも木が少なくなっていたこともあり、予定の時間よりも早く終えることができました。

【ふりかえりより】

・センター周辺が明るくなってびっくり！ひさしぶりに木工教室を楽しみました（安部）

・バードコールの作り方が簡単で楽しく作れるので誰かに教えてあげたい（田口）

２月１２日(日)

森会ボランティア体験(カブ森除間伐、シイタケ菌打ち)

１０：００〜１５：００

◆参加者：鎌田（隆）（麗）、林、迫（盛）、篠原、新牛込（寛）（清）、大田原、榊、松雪、本村、宮田（公）（宏）（陽）（啓）、羽迫、吉田、樋口（利）（友）、静間、河原（センター）、体験５名（戸高、菊池、横尾、寺田、吉武）計２６名

◆内容： ９時半から打ち合わせが始まり、助役など当日係の指名、一日の流れの確認を行い、道具の準備をしました。

１０時過ぎから参加者を迎えてオリエンテーションを行いました。全員簡単な自己紹介の後、森会についての説明と、除間伐作業についての説明を行いました。センター前で準備体操をしてカブ森に向かい、途中キャンプ場で焚火、菌打ちの用具を下ろし、焚火担当はそのまま準備に入りました。

Ａ地区に着いてから間伐、除伐、堆肥床整備に分かれて作業を開始しましたが、参加者の方は間伐と除伐に加わりました。ノコギリの使い方について説明があって、早速作業に挑戦して頂きましたが、思ったより力が要ったり、正確に切っていくのが難しいので結構苦戦されていました。

１１時過ぎから１時間と短い上、説明をしつつの活動となったので、処理本数はクヌギ間伐が１本、タブノキ除伐が２本の計３本にとどまったものの、クヌギは直径２６ｃｍ、樹高１７ｍの大物でした。全てほぼ狙った方向に倒すことが出来、早速玉切り、枝葉の処理にかかり、少しタイムオーバーしたものの人数が多かったので作業を終えることが出来ました。

堆肥床整備は７名で、のこぎり、剪定ばさみ、根切りばさみを使ってＢ地区の堆肥ヤードの枝を細かくする作業をしました。子供たちはのこぎりで太目の枝を一人一本ずつ最後までがんばって切りました。帰りもリヤカーを順番で引いてくれました。いつか子供たちにヤードで育つ幼虫達を見せてあげたいです。

作業の後は、キャンプ場に移動し、資料片手に試行錯誤の末できあがった笹茶と、焼き餅、焼き芋を楽しみながら昼食をとり、歓談、交歓のひとときを過ごしました。暖かだったので三々五々散らばっていたのが印象的でした。

食事の後は、センターで準備したコナラのほだ木にシイタケ菌を打つ作業を行いました。体験参加の人は殆どが初めての体験で最初はおっかなびっくり。でもすぐ慣れてお子さんたちも一緒に盛んに穴あけ、その後駒打ちを楽しんでいました。帰りには３０ｃｍくらいに短くしたものを御土産に持って帰って頂きました。

【ふりかえりより】

・今日も楽しく過ごさせて頂きました。（樋口）

・直径２６ｃｍのクヌギの間伐は、かかり木することもなく倒せることが出来て良かった。（迫）